株式会社レスターホールディングス

2023年３月期第１四半期
決算補足説明資料

2022年８月10日

2023年３月期第１四半期
連結業績ハイライト

業績ハイライト

単位：百万円	2022年３月期 第１四半期		2023年３月期 第１四半期		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	91,692	－	112,552	－	20,860	22.8%
売上総利益	6,240	6.8%	10,173	9.0%	3,933	63.0%
販売管理費	4,932	5.4%	6,105	5.4%	1,173	23.8%
営業利益	1,307	1.4%	4,067	3.6%	2,759	211.0%
経常利益	1,278	1.4%	3,673	3.3%	2,395	187.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,520	2.7%	2,236	2.0%	△284	△11.3%

■ 売上高

ＰＡＬＴＥＫを連結子会社化したことによる増収効果、及び引き続き車載機器や産業機器向けなど堅調な需要により半導体及び電子部品事業や調達事業が好調に推移し増収

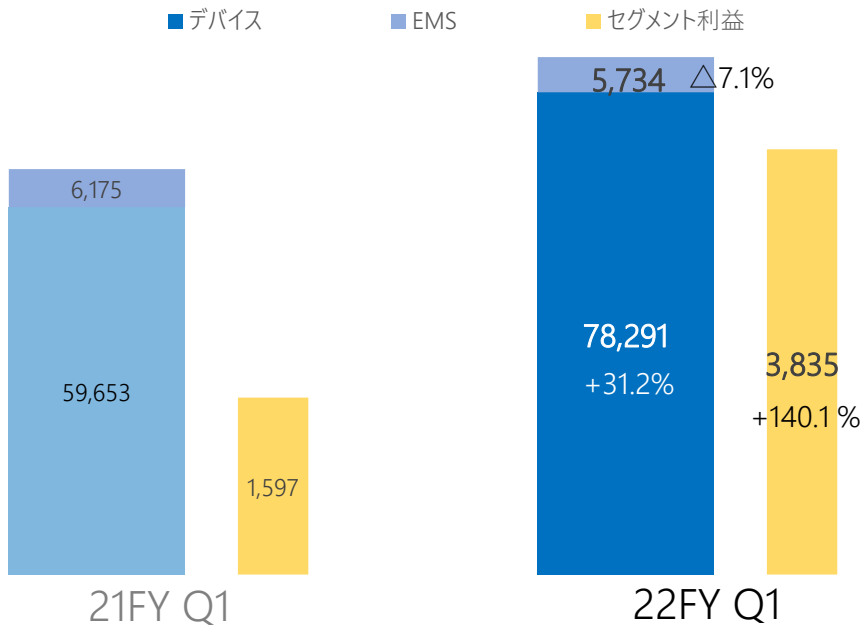
■ 営業利益・経常利益

主に増収に伴う売上総利益の増加により営業利益、及び経常利益は増益

■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期にはＰＡＬＴＥＫ及びその関連会社を連結子会社化したことに伴う負ののれん発生益1,709百万円を特別利益に計上していた一過性要因が剥落し減益

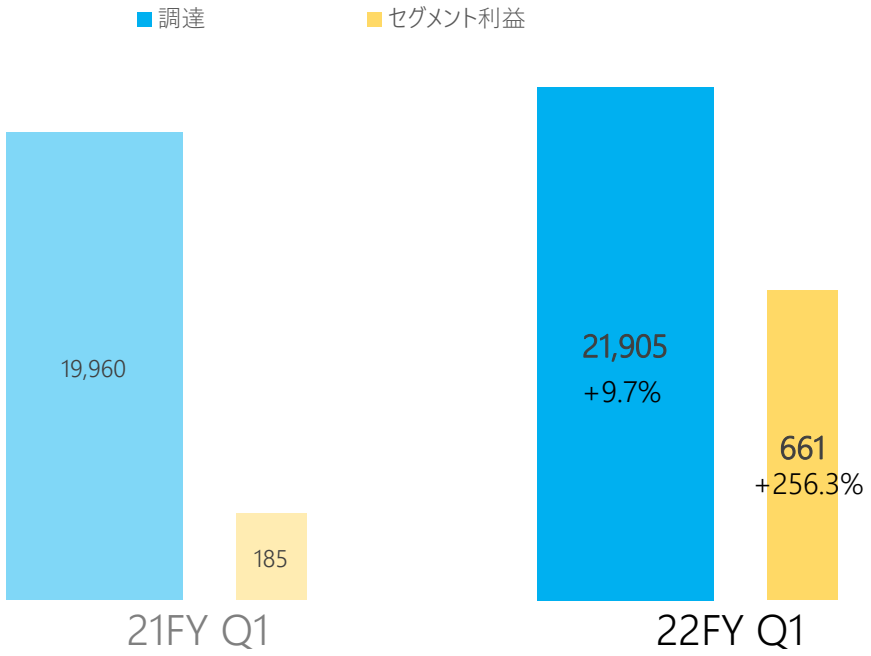
半導体及び電子部品事業



【ポイント】

- デバイス事業
  ＰＡＬＴＥＫを連結子会社化したことによる増収と車載機器向け･産業機器向け、更には半導体特需に伴う需要増もあり増収
- EMS事業
  スマートフォン向けの需要減少等により減収
- セグメント利益
  デバイス事業の売上増により増益

調達事業

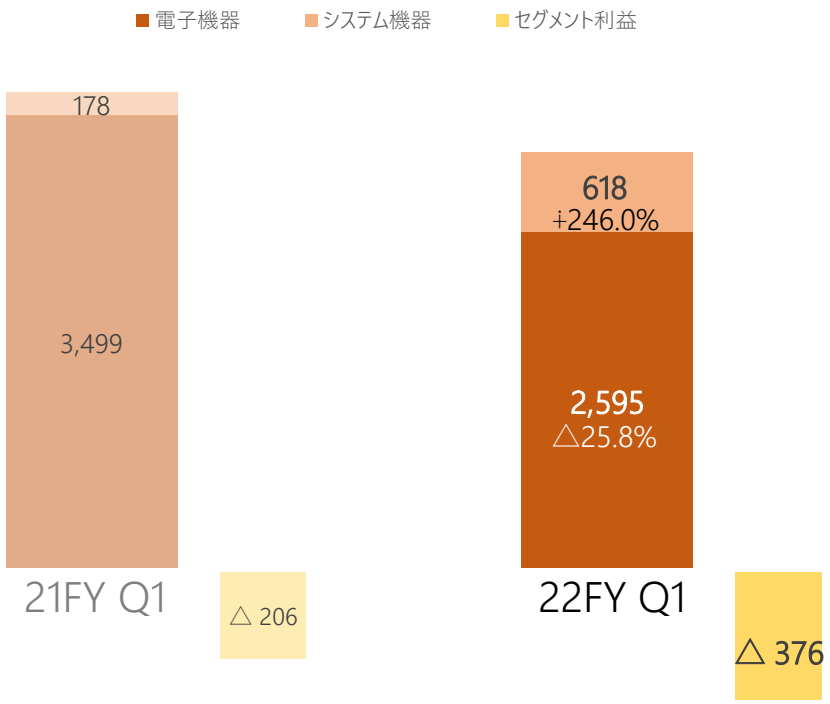


【ポイント】

- 調達事業
  パナソニックグループ向けが堅調に推移し、パナソニックグループ向け以外の新規取引も伸張して増収

- セグメント利益
  売上総利益の改善や販売管理費の抑制が奏功し増益

電子機器事業



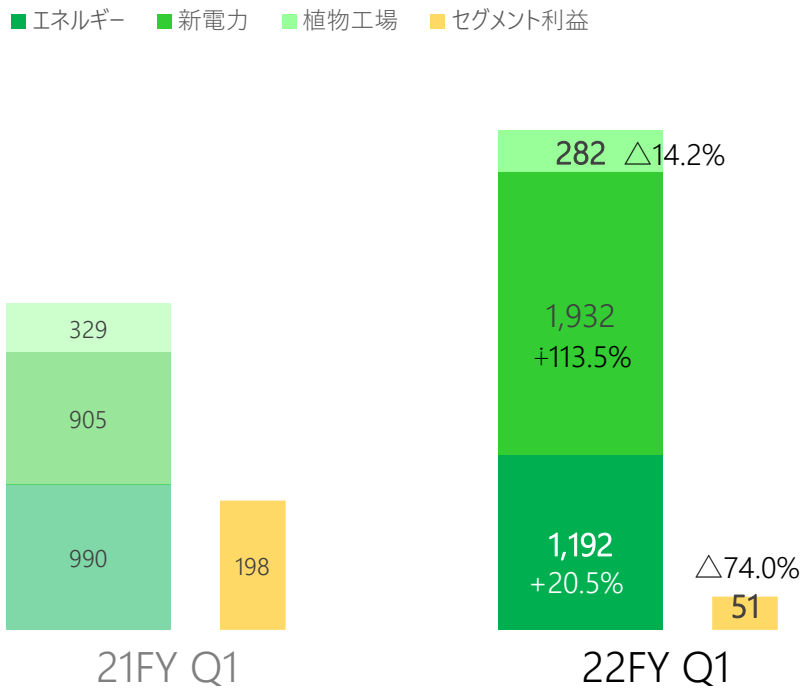
【ポイント】

- 電子機器事業
  上海ロックダウンや半導体生産の遅れ、部材納期遅延によりシステム納入に影響をきたし減収

- システム機器事業
  主にオフィスへの出社が徐々に回復していることに伴い、入退出セキュリティ端末や自動販売機向けの決済端末の需要増加、ならびにカードサービス株式会社を連結子会社化したことによる海外製決済端末の売上増加により増収

- セグメント利益
  システム機器事業は収益改善しましたが電子機器事業の減収の影響が大きく減益

環境エネルギー事業



【ポイント】

- エネルギー事業
  台湾の太陽光や国内風力発電所の新設による発電量の増加等にともない増収

		21FY Q1	22FY Q1	YoY	
エネルギー事業(百万円)(新電力への売上含む)		1,362	1,546	184	13.5%
太陽光発電量(MW)	国内	146	148	2	1.7%
	海外	16	27	11	66.4%
	合計	162	175	13	8.1%

- 新電力事業
  官需向けの需要増もあり増収
- 植物工場事業
  スーパー向けや外食需要が堅調に推移しましたが、ビジネス内容の見直し等により減収
- セグメント利益
  エネルギー事業は増益となりましたが、新電力事業における調達価格の高騰による影響が大きく減益

連結貸借対照表

（単位：百万円）	2022年３月末	2022年６月末
資産の部		
流動資産	185,599	222,090
固定資産	56,358	59,177
資産合計	241,958	281,268
負債純資産の部		
流動負債	139,329	178,083
固定負債	20,954	21,610
純資産	81,674	81,574
負債純資産合計	241,958	281,268
自己資本比率	32.1%	27.6%

2023年３月期通期見通しと進捗

単位：百万円	2023年３月期 通期見通し	2023年３月期 第１四半期	進捗率
	金額	金額	
売上高	445,000	112,552	25.3%
営業利益	8,500	4,067	47.8%
経常利益	7,500	3,673	49.0%
親会社株主に帰属する 当期・四半期純利益	6,000	2,236	37.3%

2022年5月11日公表の通期業績見通しに変更ございません。

株主還元方針

連結業績予想に基づき財務の安定性を重視

・配当の実施や自己株式取得の検討等、株主への還元向上

・積極的な戦略投資とともに、適正な資本配分の継続的な見直しも進める

・一層の利益の拡大と資本効率の改善を通じた企業価値向上の実現を目指す

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
2023年3月期予想	40円00銭	50円00銭	90円00銭

2022年5月11日公表の配当予想に変更ございません。

レスターグループ　経営理念

ミッション

情報と技術で、新しい価値、サービスを創造・提供し、
社会の発展に貢献します

ビジョン

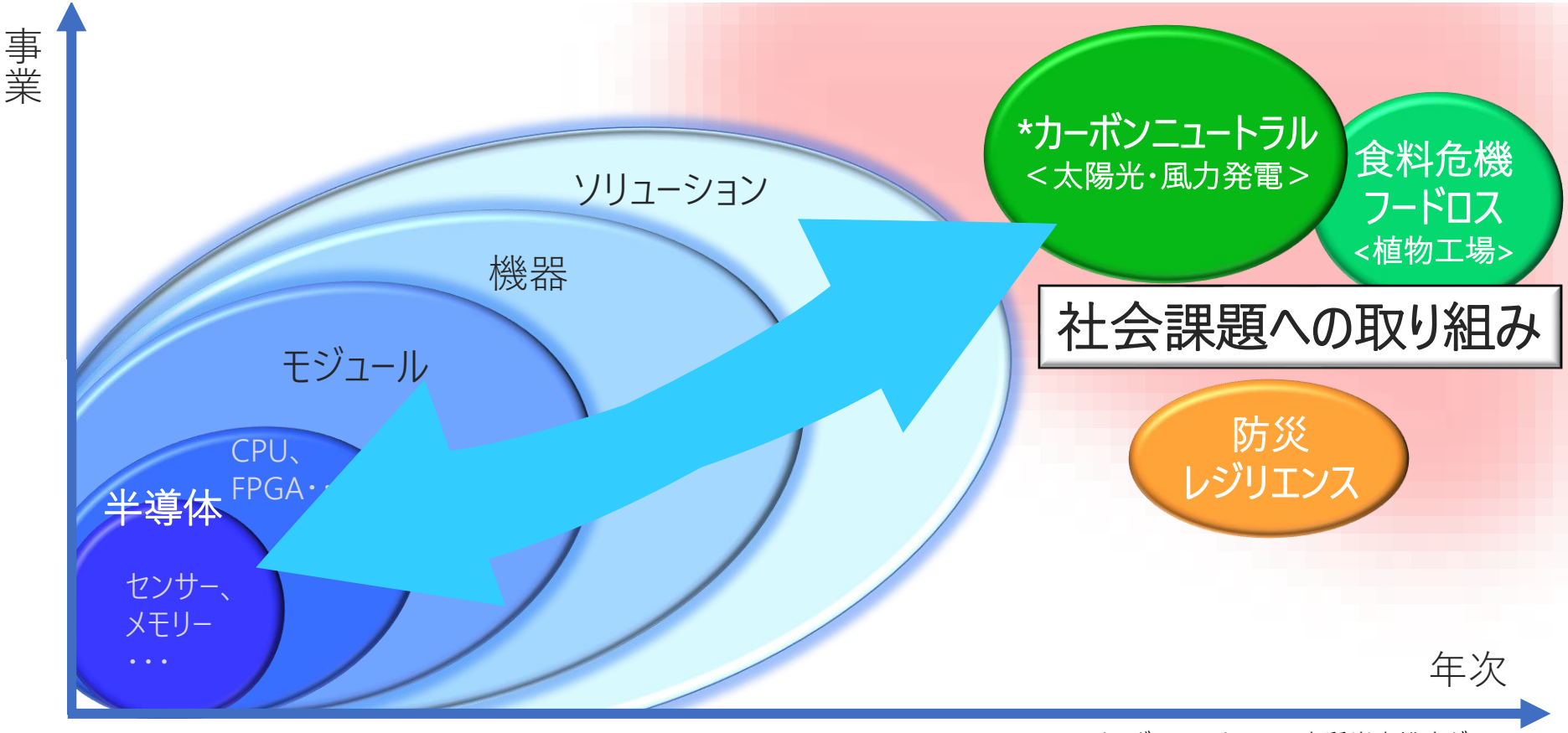
あらゆるニーズに対応できる
「エレクトロニクスの情報プラットフォーマー」を目指します

世 界 ・ 社 会 貢 献 ・ 共 創 と 革 新

バリュー

・多様な考えを受け入れ、共創を通じて、新しい文化や価値を創り出します
・常に高い目標を掲げて、革新的な発想と情熱で、挑戦し続けます
・活躍の場を世界へと広げ、持続可能な社会の発展に貢献します

レスターグループの取り組み方向性



*カーボンニュートラル：実質炭素排出ゼロ

グループビジョンと事業TOPICS

2022年 5 月以降

エレクトロニクスの情報プラットフォーマー

世界中の課題を解決する。

革新的ビジネスの創出	情報×技術 付加価値の向上	事業間シナジー	多様な事業展開

1．サステナビリティに関する取り組み

2．CVCファンドを通じた取り組み

1．サステナビリティに関する取り組み

新たにサステナビリティ基本方針を策定

当社は経営理念において「情報と技術で、新しい価値、サービスを創造・提供し、社会の発展に貢献します」をミッションに掲げ、あらゆるニーズに対応できる「エレクトロニクスの情報プラットフォーマー」を目指しています。情報と技術によって様々な社会の課題を解決する事業を営み、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ基本方針としています。

～ 基本方針に沿って、下記３つの取り組みを推進 ～

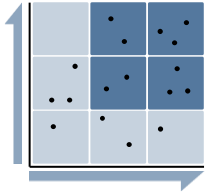
CO2排出量の算定・削減

グループシナジーを活かした削減へ

VITEC ENESTA　UPower

5つのマテリアリティの特定完了

- すべての人々の暮らしを守る
- 環境にやさしい社会をつくる
- 多様な人材の活躍を推進する
- イノベーションを通じてよりよい社会を実現する
- 持続可能なサプライチェーンを構築する



TCFD対応

気候変動への対応策策定

今後、具体的なKPIなど詳細をHPにて開示予定

2．CVCファンドを通じた取り組み

*CVC ファンド

INTELLIGENCE DESIGN
DESIGN FOR FUTURE WITH ARTIFICIAL INTELLIGENCE

画像認識：人流計測サービス

「DX」及び「医療・介護」分野を中心に
中長期的な視点で戦略投資

AIによる画像認識技術、IoT端末に関する知見を
駆使し、様々な角度から社会課題の解決

自治体向けビジネスの共創、サービス創造と事業機会の獲得へ

* CVC (コーポーレート・ベンチャー・キャピタル) ファンド：SBIインベ ストメント株式会社（SBI ホールディングス株式会社の100％子会社）と当社が 昨年 7 月に共同で設立）

＜お問い合わせ先＞

レスターホールディングス 広報・ＩＲ部
Mail to：irpr@restargp.com

＜将来の見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動並びに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。